

## 第 25 回根研究集会に参加して

諸 橋 恵 太

東北大学大学院生命科学研究所

第 25 回根研究集会が 2006 年 10 月 7 日に富山市の富山大学理学部において開催された。毎回盛況の本研究集会であるが、今回も全国各地より集まった 54 名の根研究者により、瞬く間に会場は活発な討論の場となった。

本集会では、前回とほぼ同数の一般講演として 9 演題の口頭発表、および 15 演題のポスター発表があった。紙面の都合上、個々の発表に触れることは差し控えるが、それぞれの発表は、根系のストレス応答や屈性反応といった生理学から、作物学、森林生態学に至るまで様々な研究分野があり、内容的にもイネやシロイヌナズナに代表されるモデル植物の遺伝子解析や共焦点レーザー顕微鏡を用いた細胞の解析といったミクロの研究から、樹木の個体群の解析や外国の食糧問題に言及するマクロの研究まで非常に多岐にわたっていた。これにより参加者は多くの分野の先進研究成果について、まさに「根」のような広がりをもった議論を深められたことと思う。口頭発表、ポスター発表がともに同じ会場で行われていたということも、多くの発表を隈無く観ることを可能にした要因の一つだろう。

一般講演に引き続き行われた受賞講演では、学術特別賞を受賞された村上敏文博士(東北農業センター)より、土壌に隠れる複数の根系の迅速調査法が紹介された。市販の切り花着色液を用いて染色し、電子レンジで煮沸をすることで複数の根系と土壌とを簡単に分離する方法について、ご自身のユニークな研究経歴を交え講演がなされた。また、学術奨励賞を受賞された菱拓雄博士(京都大学)より、樹木細根の生活環についての紹介がなされた。これまでは生理・形態学的に同一な器官であると考えられてきた樹木細根が、実際はその分枝構造に従って異なるユニットを持ち、それぞれのユニットは異なる機能を有することを示唆する内容であった。どちらの講演内容も完成度が高く、今後の更なる研究進展が期待される。

懇親会では富山自慢の海の幸を使ったお寿司やお刺身など、数多くの料理が振る舞われた。懇親会中も随所で机にポスター等を広げて活発な議論が展開され、私自身にとっても今後の研究活動のために非常に有意義な時間を過ごすことができた。根の研究集会は決して大規模ではないが、様々な分野の幅広い研究を行っている研究者たちが老若男女を問わず議論を深めることができる非常にアットホームな研究集会であると感じる。本集会においても、集会を円滑に進めるまでに至った過程で、その準備にあたられた富山大学の唐原先生、久米先生をはじめとするスタッフの皆様は多大な苦勞をしたことと思う。このような会を支えてくださった皆様に感謝の念を抱いた参加者は数多かったのではないだろうか。富山大会が終わり一月を経た今、スタッフ皆様に深く感謝をしつつ、根の研究会の更なる発展に思いを馳せながら、次回以降の久留米や福島での集会を非常に楽しみにしている。



第 25 回根研究集会 参加記念写真